

Serum WFA+-M2BP is a non-invasive liver fibrosis marker that can predict the efficacy of direct-acting anti-viral-based triple therapy for chronic hepatitis C

浦, 和也

<https://hdl.handle.net/2324/1654731>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



(別紙様式2)

氏 名	浦 和也			
論 文 名	Serum WFA ⁺ -M2BP is a non-invasive liver fibrosis marker that can predict the efficacy of direct-acting anti-viral-based triple therapy for chronic hepatitis C			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	小野 悦郎
	副 査	九州大学	教授	赤司 浩一
	副 査	九州大学	教授	柳 雄介

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

Wisteria floribunda agglutinin-positive human Mac-2-binding protein (WFA⁺-M2BP)は、肝線維化に特有の糖鎖変化を利用した新規の血清肝線維化マーカーである。本研究では、実臨床における WFA⁺-M2BP の肝線維化診断能および直接ウイルス阻害薬 (direct-acting anti-virals:DAA) を用いた C 型慢性肝炎治療の効果予測に WFA⁺-M2BP が有用であるか検討した。DAA (テラプレビルまたはメシプレビル) とペグインターフェロン α 、リバビリン併用療法を受けたジェノタイプ 1 型の C 型慢性肝炎患者 159 例を対象として解析を行った結果、血清 WFA⁺-M2BP 値は、肝線維化の進行と共に有意に上昇した。受信者動作特性曲線下面積解析の結果、WFA⁺-M2BP の高度線維化 (F3-4) に対するカットオフ値は、2.17COI (cut-off index) であった。また、血清 WFA⁺-M2BP 値は、持続的ウイルス陰性化 (sustained virological response:SVR) 率と有意に負の相関を示した。多変量ロジスティック解析の結果、血清 WFA⁺-M2BP 低値 (<2.17COI) は、有意に SVR と関連した因子であった (オッズ比=4.35、P=0.027)。さらに、前治療無効者、interleukin-28B 対立遺伝子マイナー例、組織学的高度肝線維化例等の難治例であっても、血清 WFA⁺-M2BP 低値例における DAA 併用 3 剤療法の治療効果は良好であった。以上の結果から、血清 WFA⁺-M2BP 値は、新規の血清線維化マーカーであり、DAA 併用 3 剤療法の治療効果予測に有用であることが示唆された。

以上の成績は、この方面の研究において意義ある成果であると考えられる。本論文についての試験は、まず研究目的、方法、実験成績、研究結果の意義について説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、ほぼ満足すべき回答を得た。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格であると決定した。